

# 個に応じた社会参加をめざして

—人との好ましいかかわり方を育てる指導—

高等部主事 森 本 一 巳

## 1. はじめに

本校高等部は昭和54年に新設され、以降学年進行により、39名の生徒が社会に巣立っていき、さまざまな集団に所属しながら力一杯生きている。しかし、彼らが職場や施設にスムーズに適応できない要因の一つに、人とのかかわり方のまずきあげられる。

そこで、生徒一人ひとりの実態を的確に把握し、個に応じた社会参加、とりわけ、人との好ましいかかわり方の指導が重要であると考えているのである。

## 2. 高等部の教育課程の概要

本校では、以前から段階別教育内容表を作成して指導を行っている。この段階別教育内容表を基にして高等部の教育課程が編成されている。(表一 高等部の教育課程参照)

表一 高等部の教育課程 ※学級編制は生活年齢で編成している。

指導単位	指導形態等	週時間数	指導者数	
生活一般	社会 理科 美術 家庭 道德 ○学級別学習(全校・学部合同の場合も有) ●時季的・行事的內容〔注1—宿泊学習、全校・学部遠足、キャンプ、大運動会、連合運動会、船上山宿泊学習、学習発表会、文集づくり、職場実習(1~2年1回。3年2回。必要に応じて随時。)] ●地理的Content ●自然的Content。 ●集団生活・社会生活への参加 ●造形的Content。	5時間	7~9人	
教科別学習	国語	○学級別指導(学級内で習熟度別学習も有)	2	2~3
	数学	○習熟度別学習(全学年縦割り5コース編成)	2	1~2
	音楽	○習熟度別学習(全学年縦割り2コース編成)	2	3~4
	保健体育	○習熟度別学習(全学年縦割り2コース編成) ※音楽と保健体育は同一のグループ	3	3~4
職業	○合同農耕園芸 ○コース別(印刷・木工・陶芸・被服) ○行事的內容〔注1—校内職業実習(年5回5~10日・宿泊学習も含む)]	2 9	9 2~4	
特別活動	○朝の活動〔朝の運動(保体と同グループ)と学級会活動] ○学級指導 ○生徒会活動(学級会、学部集会、全校集会、委員会) ○クラブ活動 ○行事(注2)	4	7	

日常生活 の指導	○着脱衣 ○排せつ ○清掃 ○給食(合同) ○行事的内容 〔注1—宿泊学習(学年別・全学年縦割り2～4回)〕		9
養護・訓 練	○配慮養護・訓練 ○抽出養護・訓練	2	9

注1—本校高等部では、行事を中心とした総合学習を行事単元学習とよんでいる。

注2—行事単元学習として扱わない行事のことである。

この教育課程を編成するにあたって考慮したのは、特に次の点である。

- (1) 数学・音楽・保健体育の習熟度別コース編成により、個別指導がより可能になり、生徒の課題達成による喜びを多くすることができる。
- (2) 生活一般を設けて教科の枠を取ったことにより、学習活動のこまぎれをなくし、生活に生かす学習内容を中心に展開できる。
- (3) 多様な集団(学級集団、学習集団、学部集団、全校集団)を編成することにより、いろいろな組合せで教師と生徒、生徒同士がかかわる機会を多く持つことができる。

高等部では、すでに本校中学部、H養護学校中学部、中学校特殊学級で獲得している「生きて働く力」をより定着させ、人との好ましいかかわり方を追求しながら「個に応じた社会参加」をめざしているのである。

主な学習内容は、「本校紀要第8集P68」を参照されたい。

### 3. 本校の研究テーマと高等部の取り組み

- (1) 障害が重度化・多様化している本校高等部の生徒に対して、一人ひとりの実態に即していっそうこまやかな指導が必要である。主題に対する基本的な考え方に立って、高等部では、生徒の現段階における発達や障害の程度を認めた上で、すでに備わっている力をどのように使っていくのか。どのように社会参加をめざしていくのかといった現実的視点も直視し、人との好ましいかかわりに重点を置いて実践研究に取り組んできた。
- (2) 研究の一年次～二年次では、教員が自分の担当する生徒の中から研究対象児を決めて個人の事例研究に取り組み、一定の成果をあげることができた。しかし、①一人よがりになりがちな研究を仲間どう支えあっていけばよいか。「あの子の指導はあの先生で」といった担当者だけにまかせている傾向をどう改めるか。②高等部では生徒数も多く、表-1でも明らかなように学級担当外の指導場面が多いため、担任による実態把握も不十分になりがちであると同時に指導方針に一貫性を欠く傾向もなかった。

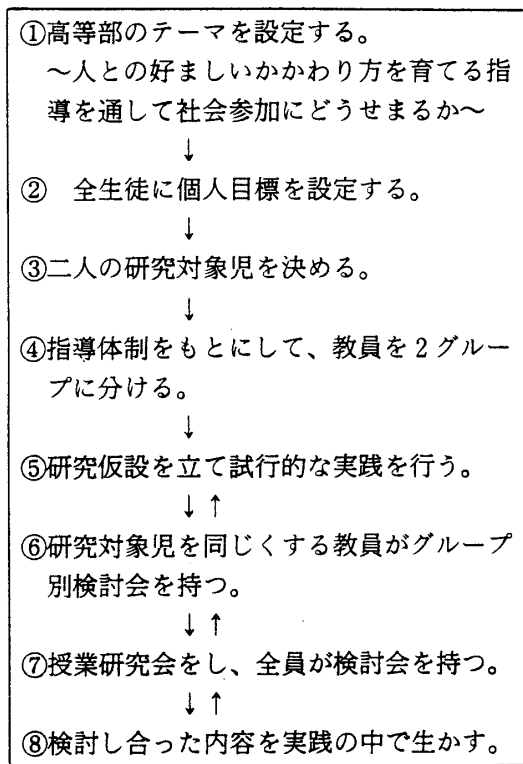
そこで、本年度は数名の教員が2グループに分かれ、一人の生徒を多面的に追求し、育てていくこうとする共同研究に取り組んだのである。

- (3) 研究は、図-1の構想に基づいて取り組んだものである。

#### ① テーマの設定

いろいろな集団で安定した生活をするためには、自立化(基礎的な生活習慣を身につけるとともに、健康で安全な生活に必要な技能、態度を養う)、社会化(身近な集団生活に参加する態

図一 1 高等部の研究の進め方



度を育成するとともに、社会生活に必要な知識、技能を養う)、表現化(身近な経験、活動を通して、情緒的・身体的、言語的・記号的な表現活動を引き出し、必要な基礎能力を養う)をはかることが必要であるが、特に、「人との好ましいかかわり方の指導はどうしたらよいか(集団における人間関係—社会化—)」をテーマとして設定した。

② 個人目標の設定

昨年度と学級担任が変わったこともあり、各担任が一人ひとりの生徒に個人目標を設定した。個人目標は、教育活動全般の中で達成されるものであることを共通理解した。

③ 研究対象児の決定

研究対象児は、能力・障害の種類や程度・生活年齢・家庭環境・就学歴等を考慮して決定した。

④ 指導体制の決定

指導者を2グループに分けるにあたり、対象児の学級担任を中心とすることと、生活一般・教科別学習・職業・特別活動・日常生活の指導等教育活動全

般でのかかわりの多少等を考え、図一2のように指導単位と担当者を決めて実践研究に取り組んだ。

以上、高等部の取り組みの概要について述べた。次に、二つのグループの実践研究について述べる。

図一 2 指導単位と担当者

指導単位	S・Uの担当者	S・Nの担当者
生活一般	松本を中心に	西村を中心に
国語	岡本・松本	出脇・西村・亀本
数学	松本・(亀本)	(岩本)
音楽	岡本・松本・(亀本)	今岡・西村・出脇・(岡本)
保健体育	岩本・松本・(亀本)	西村・出脇・今岡・(岩本)
職業	八木・岩本	(八木・岩本)
日常生活の指導	松本・岡本	西村・出脇・亀本
クラブ・委員会	松本・岩本	西村・出脇・亀本
部活動	岩本	西村

注一 ( ) 内の担当者は、直接指導をするが、その研究グループには所属しない。